

無音検知ソフト

auditor

取り扱い説明書

1. はじめに	3
概要	3
セットアップ	3
動作環境	3
インストール	3
2. 使用方法	4
メイン画面	4
休止時間	5
設定	6
一般	6
入力	7
出力	7
メール	8
外部制御	8

1. はじめに

概要

auditor は最大 8 ステレオ系統の監視を行う無音検知アプリです。
無音を検出すると、接点出力、警報音、メール送信、フィラー音声のループ再生を行います。

また放送休止時間をスケジュールしておくことで除外時間をもうけることもできます。
もちろん接点入力のある間は休止時間とみなして警報を発しない機能もあります。

接点入力による監視オフ操作や時刻較正
接点出力による警報出力を行う場合には接点出力オプション(USB 接続)が必要です。

フィラー音声と本線の切り替えを行うには、この接点出力で音声切り替わる仕組みを別途用意する必要があります。

あるいはオーディオデバイスの入力をスルー出力し、これを本線とすることで接点出力を使用しない簡易的な構築することも可能ですが、
この場合は断続的な不具合の際などにフィラー音声と番組音声が入り混じったものが送られる可能性があります。

セットアップ

動作環境

Windows7 以降が快適に動作する PC

同時に複数の系統の監視を行う場合には複数のステレオデバイスとして列挙されるオーディオIFが必要です。
(例:8入力の場合)

Input(1+2)

Input(3+4)

Input(5+6)

Input(7+8)

のようにコントロールパネル等で認識されている必要があります。

8 入力 × 1 デバイスのように認識されるオーディオ IF では 1 ステレオ入力しか使用できません。

インストール

1. CD の内容を適当なフォルダにコピーします。
全てのファイルの属性から読取専用を解除します。
2. あらかじめオーディオカードが装着されている必要があります。
オーディオドライバーをセットアップします。
3. keyXX.exe を実行して試用制限を解除できます。右クリックして「管理者として実行」を選択します。
keyXX.exe はライセンス毎に発行されるものです。第三者に利用されないよう注意してください。
4. auditor.exe がアプリケーション本体です。

管理者として実行してください。

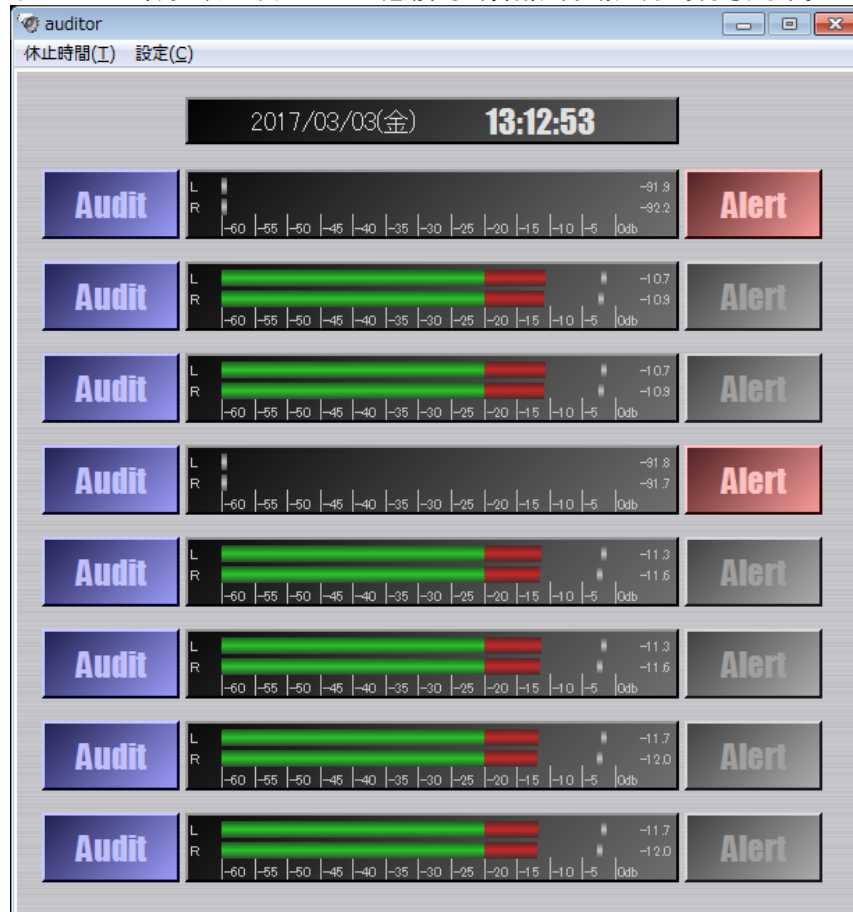
一般ユーザーとして実行すると時刻較正機能が利用できません。

スタートアップで起動させたい場合は、実行ファイル側を管理者として起動するように設定し、それを指定したバッチファイルをスタートアップに登録します。スタートアップからは直接管理者としては実行できないようになっているためです。

2. 使用方法

メイン画面

インストールが終了し、アプリケーションが起動すると録音数と同じ数の列が表示されます。



Audit	該当する系統で監視をオン/オフします。
Alert	警報時に点灯します。警報中にクリックすると警報出力がオフになります。
[休止時間]	休止時間設定画面が表示されます。
[設定]	設定画面が表示されます。

休止時間

Ch	開始時刻	終了時刻	開始日
1	22:12:00	22:16:00	火
3	22:14:00	22:15:00	火
1	22:12:00	22:16:00	2013/11/22

系統ごとに休止時間を指定し、その間は警報を発しないようにすることができます。

曜日または日付を指定し、chと開始終了時刻を指定します。

[追加]を押すと行が追加されます。

行を選択してから内容を変更し[上書き]を押すと、その行の内容が変更されます。

行を選択してから[削除]を押すとその行は削除されます。

設定

一般

[基本設定]を選択すると以下の画面が表示されます。



入力数	録音系統数の入力します。
サンプリング周波数	録音サンプリング周波数
無音レベル/無音秒	無音レベル(ピーク)以下の音量が無音秒以上続いたときに警報を出します。
無音秒(片 ch)	ステレオの片方の ch のみ無音の状態を警報する秒。
復帰秒	警報中に復帰秒以上音声入力が続いたときに警報を取りやめます。0を指定すると取りやめは行いません。
表示サイズ	メイン画面の部品の大きさを比率で指定します。
表示フォント	表示に使用するフォントを選択します。
メーターレベル	メーターの赤くなる位置をdbfsRMSで指定します。
1 日の開始時刻	(例) 050000 を指定すると 1 日の時刻表示は 5 時から 28:59:59 までとなります。 変更をすると過去に作成したスケジュールが無効になることがあります。
起動時検知開始	アプリ起動後に検知開始します。

設定変更後はアプリケーションを再起動してください。

入力

名称	入力デバイス	レベル	mono
1 test	Analog (1+2) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
2 test2	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
3	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
4	Analog (7+8) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
5	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
6	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
7	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>
8	Analog (5+6) (RME Fireface UC)	0.00 db	<input type="checkbox"/>

名称	監視する音声系統の呼称
入力デバイス	入力に使用するオーディオデバイス
レベル	録音レベルを db 単位で指定。デジタルレベル変更なので、歪み回避はできません。
mono	オンにすると Lch のみ監視対象とします。

出力

出力デバイス	レベル	フィルター
1 ADAT (3+4) (RME Fireface UC)	0.00	D:\test\Diamond Head - Canterbury - 08 - I Nec ...
2 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	D:\test\captor\captorsrv\スネア.wav
3 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	
4 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	
5 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	
6 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	
7 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	
8 スピーカー (RME Fireface UC)	0.00	

☐ 警報音

出力デバイス	フィルター再生の出力に使用するオーディオデバイス
レベル	再生レベルを db 単位で指定。 デジタルレベル変更なので、オーディオデバイスの最大出力以上は出ません。
フィルター	無音検知時に替わりにループ再生する音声素材ファイル。wav のみ対応
警報音	警告のあったときにピープ音を既定の再生デバイスから再生します。 フィルター再生に使用するデバイスは既定のデバイスに指定しないでください。

メール

メール送信先	系統ごとにメールの送信先をばらばらに設定できます。複数指定する場合はセミコロン;で区切ります。
ホスト	SMTP サーバー。 Gmail は使用出来ません。Gmail はサードパーティのメールアプリ自体が使用できませんが、その他にもセキュリティの厳しいメールサーバーでは使用できない可能性があります。
送信元アドレス	送信元アドレス
ポート	リモートポート、ローカルポートを指定します。
認証	SMTP サーバーの認証が必要な場合はユーザー名をパスワードを指定します。
英文メール	文字化けする場合などに英字のみのメール文を送ります。
復旧時も送信	警報が解除されたときにもメール送信します。

外部制御

設定

一般 入力 出力 メール 外部制御

毎時 0 分 0 秒 前後 120 秒以外は無視

BCD NA 38400 校正ピン NA

HID ID NA NA

Cancel OK

(時刻校正)	マスター装置などから信号をもらい内部時計を校正します。 NTP クライアントアプリを利用してネットから時刻を取得する方法もあります。
毎時 分 秒	参照する時刻を入力します。59 分 0 秒と入力すると、接点を受け取ったタイミングを 59 分 0 秒とみなします。 [前後 n 秒以外は無視]に 0 以上の数値を入れると、不用意な接点入力を無視することができます。 BCD シリアルモードの場合は 59 分 0 秒の信号を受け取ったときに修正を行います。 BCD を利用する場合はメイン画面に BCD の時刻も表示されます。
BCD	BCD シリアルによる時刻校正を行います。 オフの場合は接点をシリアルに変換するオプションを使用します。
(シリアルポート)	Com ポート番号を選択します。
(Baud)	通信スピードです。 BCD シリアルでは 2400、接点をシリアルに変換するオプションを利用する場合はその仕様に合わせます。
HID ID	USB 接続の接点受信ボックスで警報出力、時刻校正を行う場合に機器 ID を選択します。
校正ピン	接点入力により時刻校正を行う場合は入力ピンを指定します。 ここで指定されたピンは監視キャンセルには使用できません。